

令和1～2年度「西脇知事と行き活きトーク」開催実績

回	開催日	場所	テーマ	ご意見等	京都府の対応(施策化・検討状況)
24	R2.3.14	サンガスタジアム byKYOCERA	スタジアムを生かした地域振興	<ul style="list-style-type: none"> ・まだまだ知らない京都の発信する施設になるべき。ポツンとスタジアムにならないように世界へ向けての情報発信の拠点になるべき ・豊かな北の暮らしのフィールドの発信地として、ここへ来たらさらに北へ足を伸ばしたくなる装置になればと思う。 ・京都市という大きな集客フィールドがあるので、そこにアプローチすることが一つの戦略 ・知名度アップに役立つ国際大会の誘致を 	<p>[国際大会等]令和3年7月 スタジアムにおいて、なでしこジャパン(サッカー日本女子代表)のオリンピック壮行試合の開催を予定。引き続き各競技団体と連携・協力し、様々なスポーツの国際大会や大規模大会の誘致を図っていく。</p> <p>令和3年度当初予算で計上予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都丹波ブランド強化・発信事業:5,470千円 ・広域観光推進事業:1,080千円 ・京都丹波サイクルツーリズム推進事業:3,000千円
25	R2.7.7	福知山公立大学	コロナ感染拡大と学生生活への影響	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の授業がリモートになってしまった。実技習得が必要なものは、少人数でも直接参加できるようにしてほしい。 ・大規模な就活イベントに参加できず、自分に合った企業を探すのに苦労した。 	<p>[学生生活]府内の大学・短期大学が実施する、学内施設等における感染拡大予防対策や、3密を避けた授業の実施を支援するため、令和2年9月補正予算において大学等学生生活安心支援事業費として予算化。感染対策をとりながらの対面授業や、オンラインとの併用授業の実施のために、府内の多くの大学で活用。</p> <p>[就職活動]コロナ禍においても、企業と学生の出会いの場を提供するため、9月5日に「バーチャル京都ジョブ博」をWEB上で、2月20日～21日には「KYOTOジョブフェア」を対面、WEBを併用して実施。状況に合わせて開催方法を工夫。その他、京都ジョブパークにおいて、WEBマッチングシステム「ジョブこねっと」による企業とのマッチングを促進するとともに、学生の「有償インターンシップ」を受け入れる企業への補助を通じて学生の業界研究の支援も行っており、令和3年度においても引き続き実施。(WITHコロナ雇用ミスマッチ対策事業費、STOP氷河期・学生就職応援事業費として計上予定)</p> <p>なお、令和3年度予算においては、新たに未内定の大学生向けの合同企業説明会を開催し、府内企業とのマッチングの場を提供。(STOP氷河期・学生就職応援事業費として計上予定)</p>
26	R2.7.7	福知山城	WITHコロナにおける観光	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行は遠出が旅行の一つの価値だったが、近場だからこその特別感や価値をPRしていけたら ・コロナの影響で移動手段やどの程度の距離を移動しているかなどデータが得られると計画を立てやすい。 ・行政区分ではなく、この辺では兵庫県の一部を含めたエリアに一体感がある。地域の区分を流動的にして観光戦略を立てることも必要では。 	<p>[広域的な連携]亀岡市・南丹市・京丹波町を所管する南丹広域振興局、兵庫県丹波篠山市・丹波市を所管する丹波県民局と大丹波連携推進協議会(大丹波観光推進委員会)を組織し、行政区域にとらわれず府県を超えた一体的な観光推進に取り組む。</p> <p>[マイクロツーリズムの推奨]一般社団法人日本自動車連盟(JAF)と連携したドライブスタンプラリーでは、3密を避けながら楽しめる、これまで取り上げられることが少なかった穴場スポットを紹介するなど、近場での新たな観光の楽しみ方を提案するとともに、中丹地域から概ね2時間圏内の京都市及び周辺市町の人に向け、生活情報紙を通じて、中丹ならではの地域の魅力をPR。令和3年度においても、行政区域を超えた広域的な取組を推進。</p> <p>[POSTコロナの観光]令和2年5月に「新型コロナウイルス感染症対策危機克服会議」を設置し、専門家や有識者等との協議を交え、WITHコロナ社会における観光のあり方について検討を進めてきたところ。今後は府内各地域の魅力をSNS等の主観的データや、位置情報の人流データ等の分析により再発見するとともに、これらを活用できる観光関連事業者を育成し、地域の本来の魅力を活かした持続可能な京都観光の実現に向けて取り組む。(令和3年度当初予算「地域の魅力を活かした観光振興事業」で、60,000千円計上予定)</p>
27	R2.8.1	飯尾醸造	地域に活力を生み出す社会づくり～食×ローカル～	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客数を増やすのではなく、観光客数を減らしつつ、客単価・滞在時間を延ばすことがオーバーツーリズムを避けつつ、観光業の人たちにプラスに持っていけると思っている。 ・ぜひ、ミシュランを京都市内だけではなく、京都府全域でお願いしたい 	<p>[e/バイク]コロナ禍でも密を避け屋外で楽しめるコンテンツとしてe/バイク人気の高まりを受け、来年度の振興局予算(地域振興計画推進費)において、「e/バイクツーリズム推進費」として150万円を計上し、WITHコロナ、POSTコロナに対応した周遊・滞在型観光を促進するため、充電ステーションの充実強化やe/バイクを活用した観光コンテンツ造成を担う事業者を伴走支援する。</p> <p>[ICTを活用したモデル事業の実施]今年度の総務省のモデル事業の成果を踏まえ、振興局予算でWITH・POSTコロナ時代における新たな観光コンテンツの造成支援として200万円を計上し、ICT機器を活用したりリモートガイドによるモデル事業の実施やリモートガイド体験会・ガイド養成講習会の開催を予定。</p> <p>これらの取組により、丹後の観光の高付加価値化、観光客の満足度向上、滞在時間の延長、宿泊客の増加、客単価の向上を図り、もって地域振興計画で掲げる稼げる地域を目指す。</p>
28	R2.8.1	向井酒造海上デッキ	地域に活力を生み出す社会づくり～食×ローカル～	<ul style="list-style-type: none"> ・薦池大納言のような地域の産物をどう次の世代に伝えていこうかを思案している。 ・伊根の中だけでなく、他の地域の方とも交流を深めて、新しいものづくりをしていきたい ・漁業の魅力を発信して、担い手を維持していくのも私たちの役目だと思う。 ・地元の農家さんと一緒に商品開発を行うなど技術や販売の面でも「農福連携」の幅が広がっている。 	<p>[漁業の担い手]府内漁業への新規就業者数は年間50人前後で安定しているが、廃業者数は、新規就業者数を大幅に上回り、減少傾向。平成30年の府内の漁業就業者数は、約1,000人で、20年前と比べると、約4割減少。漁業の担い手不足による漁村の過疎化、高齢化が懸念。京都府では、平成27年度に漁業関係団体、行政、漁村の人達の協働体制で京都府漁業者育成校「海の民学舎」を開設。漁業への就業希望者が円滑に就業、定着できるよう引き続き支援。(令和3年度当初予算 海の民学舎事業費(3,900千円)計上予定)。</p> <p>また、漁業への就業を志す若者に対して、新規就業者のスキルアップ研修、漁業経営・リーダー養成研修の実施や、漁業協同組合が行う漁船・漁具リース事業を支援することで、新規就業者の初期投資の費用負担を軽減させる制度の実施等の支援を引き続き行う(令和3年度当初予算 漁業・漁村の未来を担う若い漁業者育成事業費(6,001千円)計上予定)。</p> <p>[農福連携]府内には農福連携に取り組む障害福祉事業所が約60事業所。地元農家の方が生産した野菜を商品化して販売するなど、地元農家の方と連携している事例が多くあり、例えば社会福祉法人よさのうみ福祉会「リフレかやの里」では、地元農家の方が生産した野菜(規格外野菜や出荷余りなど)を使用してジュース・ジャム・缶詰などに加工。小ロットでも対応可能なことから、多くの農家の方から依頼を受ける。京都府では平成29年度より京都式農福連携事業(令和2年度予算:50,158千円、令和3年度当初予算案で50,000千円計上)に取り組んでおり、その一環として、リフレかやの里のほか農福連携に取り組む福祉事業所に対して、6次産業化等に取り組む事業を京都式農福連携補助金により支援。今後も、障害のある人もない人も誰もがお互いに支え合い、地域の担い手として活躍できる社会の実現のため、更なる農福連携の推進に取り組む。</p> <p>[地域特産物]薦池大納言や京の伝統野菜のような地域特産物は、生産量は少ないものの、希少価値があり、地域活性化の取組における貴重な地域資源。継続的な生産をするためには、地域の生産者を確保するとともに、高品質・安定生産により産地としての評価を高めるための技術支援や、生産に必要な機械や施設の導入支援が必要。京都府では、各農業改良普及センターにおいて、JAや市町村と連携し、濃密な技術指導による品質向上や機械・施設導入による生産拡大など安定した産地として育成する取り組みを行う。また、京の農業応援隊の取組において、各農業改良普及センター所長を隊長として、産地や生産者と商工業者とのマッチングに取り組んでおり、生産から販売までを一体的に支援。(令和3年度当初予算 農業改良普及事業費(35,033千円)、京の地域特産物応援事業(16,600千円)計上予定)毎年、宮津高校伊根分校の学生が、地元農家の指導のもと、薦池大納言への生産者の想い・特色等の講義、播種・収穫作業を行っており、府としてふるさと・棚田支援事業(教育実践パートナーシップ活動)の取組として支援。R3年度当初予算として「丹後の地域資源活用・事業化プロジェクト(丹後局地振費)」を創設し、丹後地域の豊富な農産物を活かし、地域内外の企業のマッチングを図り、商品開発などへの支援を予定。コロナ禍で生産した農作物が十分に出荷できない状況があったが、「中小企業等新型コロナウイルス対策緊急支援事業」の支援により、農家が生産したいちご、玉ねぎ、ピーツをリフレかやの里にてジャム、ピクルス、ドレッシングへ加工され、生産農家においてネット販売などを行う。</p>

回	開催日	場所	テーマ	ご意見等	京都府の対応(施策化・検討状況)
29	R2.9.9	光華女子大学	コロナと学生生活	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業では、同級生の理解度が把握しづらく、質問をしづらい傾向にあった。一方で、毎回授業に関する課題を出題され、しっかり復習できた。 ・高齢者が重症化しやすいので、自分が感染源になりたくないと思った。 ・前期の授業がリモートになり、実技実習が実際にできなかったため、これから病院実習を行うことへ不安はある。 ・病院でのインターンが難しいので、就職活動を行うにあたって、どの病院にするのか決めるのが難しい。 ・オンラインでの病院の説明会や見学会では、病院の雰囲気や働いている人のイメージができないので、決め手にかける。 	<p>[学生生活]医療・福祉系の学生が医療機関等で安心して実習を実施できる環境を整備するため、医療機関等での実習生に対して、大学が事前に実施するPCR検査費用に支援を行うために同じく9月補正予算において施設実習生安心確保事業費として予算化。</p> <p>感染対策をとりながら対面授業やオンラインとの併用授業を実施するとともに、実習生と医療機関等の双方が安心して実習を実施するために、府内の多くの大学が活用。</p>
30	R2.10.8	府立洛西高校	コロナと高校生活	<ul style="list-style-type: none"> ・休業中の家での学習では、分からないところがあってもすぐに聞けないことに困った ・受験生なので、新型コロナウイルスに感染して勉強が遅れたり、試験が受けられなくなったらどうしようと思う ・大学入試で「問題をどう考えていくか」が重視されているなか、グループワークが減ったのは不安 ・「人に教える」ことがなくなったため、問題を解く流れが間違っているにも気づきにくい 	<p>[ハイブリッド型教育]令和3年度当初予算(スマートスクール推進事業費)で715百万円(うち2月補正469百万円)を計上し、BYODによるタブレット端末等を活用した新しいスタイルの授業を実施できる環境を整備。対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型教育により、コロナ禍においても主体的・協働的な学びの実現を目指す。</p>
31	R2.10.8	府立陶工高等技術専門校	長い歴史と豊かな文化的土壌の中で育まれた京都の伝統産業の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭・保育士という前職の経験を生かして、子どもや保護者が気軽に来られる陶芸教室を開きたい ・京都に焼きものを習いに来た人が、地元へ技術を持ち帰ることで、陶芸の裾野が広がっていくと思う ・家業の薫元を継ぎ、京焼・清水焼の発展に貢献していけるよう、技術を向上させたい ・時代の変化に合わせて“京都らしい”焼きものを作っていきたい ・出産や育児などで陶芸から離れてしまった職人さんたちが、また戻ってきやすい業界になってほしい 	<p>[訓練内容の充実]これまでの陶磁器製造に必要な基本技術を身につけさせる訓練とともに、用途やニーズに適したデザインを考える力を付けさせる内容を付加した訓練内容にリニューアル。基本課題や応用課題の他、就職先に応じた技能習得の機会も設けるなど、即戦力となる職人を育成。令和3年度からは図案科(1年)を絵付デザイン科(2年)に改編し、これからの陶磁器製造業界を担う創造的な人材育成を目指す。</p>
32	R2.11.11	KICK	起業するなら京都！(ライブ配信)	<ul style="list-style-type: none"> ・京都は産学連携などはしやすいが、新技術をアピールする場が足りない ・外国人が日本人と起業するとき、ビザの関係で融資条件が厳しい ・世界中・日本中から人材が集まりやすい環境を整備していただきたい ・「けいはんな」にいるおかげで、多様なビジネスを展開できている ・DX・AI人材の育て方のパッケージを作って世界に展開していきたい ・スタートアップのみんながシェアできるようなサービスを提供したい 	<p>[人材の集積]令和2年度からの「起業するなら京都・プロジェクト」で実施している起業創出プログラムを増設するとともに、大型資金獲得ピッチ会等も新設し、さらなる人材の集積を図る。 (令和3年度当初予算「起業するなら京都・プロジェクト推進事業費」(138,981千円))</p> <p>[融資相談]融資の条件は、事業計画を左右する技術の保有者や在留期間等を総合的に勘案し判断されることであり、令和2年度から融資をはじめとする外国人の起業に関する様々な相談対応を「京都海外ビジネスセンター」にて行う。(同上)</p> <p>[販路開拓]京都ビジネス交流フェアやチャレンジバイ制度等に加え、令和2年度からは、「VPK(バーチャルパーク京都)」を活用したバーチャル展示会や、ビジネスマッチングサイト「京都商談ナビ」等により、一層開発した製品・サービスの販売を促進。 (令和2年度4月補正「中小企業「助け合いの輪」拡大事業費」(7,000千円)、令和2年度9月補正「ものづくり産業臨時総合応援事業費」(310,000千円))</p> <p>さらに令和3年度は、企業間アライアンスを促進するため、技術紹介交流会なども実施予定。 (令和3年度当初予算「企業連携型ビジネス構築事業費」(220,000千円))</p> <p>[グローバル展開]グローバル展開を目指すスタートアップ企業を支援するため、海外投資家を招いたピッチ会を開催するとともに、「スタートアップ・エコシステム グローバル拠点都市」を対象として国が実施する海外トップアクセラレーターによる支援プログラムなども活用。 (令和3年度当初予算「起業するなら京都・プロジェクト推進事業費」(138,981千円)(再掲))</p>
33	R2.12.12	日図デザイン博物館	障害のある方がそれぞれの個性や才能を発揮することのできる芸術・文化の持つ力や楽しみ	<ul style="list-style-type: none"> ・「伝福連携」の理念の下、障害のある方々が伝統産業の担い手として貢献できるように頑張っている ・将来、安心して暮らせるグループホームを増やしてほしい ・大好きな絵で、大好きな琵琶湖を描いた。たくさんの人に見てもらえると嬉しい ・福祉とアート、それぞれの現場を行き来して、文化をつなげる“通訳”のような立場で活動。コロナ禍でも作品の発信を継続できるようサポートしたい 	<p>[福祉と他の分野との連携]京都府内で障害福祉事業所が農業に取り組む「農福連携」が進む。</p> <p>[グループホーム]京都府障害福祉計画・京都府障害児福祉計画に基づいて整備。</p> <p>[障害者芸術]令和2年度については、京都とっておきの芸術祭の応募作品をWEBでも紹介。京都とっておきの芸術祭以外に、「art space co-jin」での常設展等の開催、デジタルアーカイブ事業など作品発表の機会を確保。さらに、障害者芸術への関心を高めるため、府域全域で作品展を開催。 令和3年度当初予算(障害者文化芸術推進事業費)39,000千円計上予定 令和3年度当初予算(文化芸術発信強化事業費)5,000千円計上予定</p>

回	開催日	場所	テーマ	ご意見等	京都府の対応(施策化・検討状況)
34	R2.12.15	旧尾藤家住宅	世界のテキスタイル産地をめざして	<ul style="list-style-type: none"> ・時代に合わせて変化する勇気を持ち、地域で切磋琢磨し共に成長していきたい ・創業300年を契機に、ドレス製作など新たな挑戦もした。今後もこうした魅力を発信し続けたい。 ・地域の方々にも、丹後ちりめんの魅力を知って頂くことで、次代へも繋げていきたい。 	<p>[丹後ちりめん創業300年]丹後テキスタイルエキシビジョンをはじめシルクサミット2020の丹後の地での開催を支援し、地域をはじめ全国に丹後産地をPRするべく情報発信等にも精力的に取り組む。今後とも、総合的なテキスタイル産地として、丹後ちりめんをはじめとする製品、技術を国内外に広くPR。機業、組合、行政等が一体となり、丹後ちりめんのブランディングを行い、着実に成果をあげている。織物・機械金属振興センターとして産地の新たな挑戦を引き続き技術的にサポートするとともに丹後産地の魅力発信拠点となる「TANGO OPEN CENTER」の開設に向けた取組を支援。</p> <p>[販路開拓]時代に合わせて変化するニーズに対応した新商品開発や販路開拓をめざすものづくり研修等を実施し、売れる商品づくりや販路開拓の支援を行う(織物・機械金属振興センター)。また、京都府丹後テキスタイルブランド支援強化事業費補助金等を活用しながら新たな商品の販路開拓をめざし国内外の展示会等に出展する事業者を支援。今後も、新たな事業展開をめざす事業者が抱える課題等に寄り添い、技術相談や依頼試験、機器貸付等を通じて支援。 (令和元年度実績) 依頼試験 3,040件 機器貸付 553件 技術相談 3,924件</p> <p>[人材育成]幅広い人材育成研修(R元年度 18講座 受講者延べ552人)や地域の小中学生を対象にしたものづくり体験イベント(明日を担う「丹後の人」育成事業 参加者113名)などを実施し、次世代を担う人材の育成・確保を図るとともに、関係団体と連携しながら製織及び織機調整等の技術のアーカイブ化にも取り組み、丹後産地の生産基盤の維持、技術継承に努める。</p> <p>令和3年度当初予算(伝統産業産地再構築事業費)で7,000千円計上予定 タンゴオープンセンターの開設準備支援 マーケットニーズに対応したものづくりと国内外マーケット開拓を実践するため、試作・販路開拓を段階的に実施 ・マーケットイン型ものづくり(共同で試作できる場づくり) ・オンライン・オフライン商談 ・デザイナー、バイヤー、クリエイター等の交流(本物の素材を体感)</p>